



10・11・6(土)  
南NEWS NO43

### 嬉しい斎藤投手の言葉

早稲田大学を優勝に導く活躍をした斎藤投手が祝いの会で次のようなことを言っていました。正確にコピーはできませんが

「いつも斎藤佑樹は何かを持っていると言いつけられてきました。自分なりに考えてそれは何かと確信しました。それは“仲間”です」

嬉しいですね。育ち合い、切磋琢磨する仲間がいたから自分も成長できたと言っているのです。

“三間”、大切ですね。共にめざすサッカーを創る仲間、育ち合う仲間、共にサッカーを創る空間・時間の三間の中で、自分を育て、共に育ち合う南の子どもたちを応援していきましょう。

### 府中招待5・6年生 10月16日(土) 府中少年朝日サッカー場

初日、各ブロックリーグ戦の試合レポートです。

結果は1勝2引き分けで、Cブロック4チームの2位となり、2日目2位トーナメント進出です。2日目は6年生+5年生4人=11人の最少人数で2位パート1位を狙います。

#### ■南八王子 vs 上溝 FC 0-0

朝一の試合ですが南の動きも悪くない中、相手のアプローチも早く、攻撃ではパスをどんどん蹴ってくる試合展開の中、一進一退で試合は進行。横山君のスルーパス、中野君→細川君のコンビプレー、国広君の相手長身FWへのディフェンスなどいいプレーが見られますが、決定的な得点チャンスも作れずドローで終了。

#### ■南八王子 vs 府中新町 FC 1-1 得点者：加藤君

開始早々、ゴール前でのアプローチが甘いところを狙われ失点。苦しい展開です。相手チームは小柄ながら、個人技をベースに素早い攻撃を展開しなかなか追いつけません。そんな中、小澤君→工藤君と渡ったボールを最後に加藤君がゴール前で素早い反転シュートを決めて追いつき同点に持ち込み試合終了。

#### ■南八王子 vs 府中南 FC 2-1 得点者：小澤君、工藤君

前の試合で府中新町FCが勝ち、一位勝ち上がりを決めたため、勝って2位を決めよう！と気合を入れて試合にのぞみます。試合開始4分すぎ、コーナーキックから失点しますが、逆にコーナーキックから、横山君→小澤君とつなぎゴールを押し込みます。後半に入り、加藤君がドリブルで持ち込みゴールラインぎりぎりから上げたクロスを生かして工藤君が綺麗なダイビングヘッドを決め2-1と勝ち越し。その後は全員で守りきり、Cブロック2位を決めます。

グラウンドの芝状態が悪いため、ボールが転がりにくく、攻撃では大きな展開がしにくい状態でしたが、アプローチの早い守備で、どの試合も最少失点に抑えられました。第2試合では同点に追いつき、第3試合でも逆転勝ちと、粘り強く、我慢強い試合も展開できる成長を感じとれた試合でした。 by 中野コーチ

### 府中招待2日目 2位ブロック

#### ○南 0-0 府中4BK PK2-1

府中の強豪チームとの対戦に6年生7人、5年生4人の計11人で臨みました。

試合開始前に全員で「勝ちを目指す」ことを確認して臨みました。開始早々から攻め込まれますが、国広君、川窪君、青木君の気合の入った激しい守備と、最終ラインでは小澤君が判断よく守り、相手に点を与えませんでした。

6年生に引っ張られるように末吉君の体を張ったボールキープや矢久保君、八木下君の速くしつこいディフェンス、能登君のあきらめないでボールを追うプレー、勝ちたい気持ちが一つとなってチーム全員で戦いました。後半には小澤君、小原君、横山君でシュートまで持っていくのですが、0-0のままPK戦となり、牧井君が4本止めて勝利しました。

#### ○南 0-7 町田JFC(前半0-3)

第一試合の10分後に行われた第二試合では、青木君頭痛のため10人で戦いました。後半に青木君が復帰しますが、ここまで全力を出して戦ってきた末吉君がベンチに下がりやっぱり10人で戦います。パート優勝の相手に効率よく点を取られますが、この試合でも小澤君がプレーで皆を引っ張り、川窪君が声を出し、最後まで全員が勝つ気持ちを持ち、点差を感じさせないプレーをします。終盤に入ってから横山君が切れのあるドリブルで突破を図ったり、牧井君がFWに入ってからサイドからの攻めの形を作ることもできました。

#### ○南 0-3 YNキッカーズ(前半0-2)

精一杯の試合を2試合続けた後の3試合目、この試合も10人で戦いますが、さすがに足が止まってしまい、開始早々に2点を失ってしまいました。

それでも小澤君、国広君が中心となって、なんとか気合を持ち直して戦いますが、防戦一方でした。

二試合目から三試合目で、矢久保君の守備の動きが目立って良く、1対1に負けなくなりました。

by 伊藤コーチ

### 南の原則 トレセンへの参加の原則

南は“三間”を大切にして、自分のめあて・チームのめあてをもち、自分を育て、共に育ち合う中で、他を思いやる優しさ、やらなければいけないことをやり抜く強さをもつ子に育ててほしいと願い、目標にして活動しています。どこのクラブもそのような目標をもっているとします。ところが、トレセンの大会参加のためにメンバーが引き抜かれると思うような活動ができない事態が生じます。

矢上は、30年ほど前に八王子サッカー協会の指導部長をしていましたが、その当時はトレセンの大会は年間2つでした。今は5・6年合わせて10数回を超えます。多すぎて所属するチームでの活動に支障をきたすといつも言っています。

南はトレセンの大会より南の試合を優先します。但し、12ブロックの都選抜大会への参加、都代表になったときの活動はその限りではなく、参加してもらっています。都選抜大会で南の先輩達が4度優勝し、関東でも3位になっています。

南では子どもたちに「都代表をめざそう！」と言っています。代表になってベルリンに行こう、国際大会に出場しよう、それを目標に練習に取り組もうと言っています。日本代表の森本選手、中村憲選手も都代表として活躍していたのです。

南のOBでは23期生の石井誠君が都代表になり国際大会で活躍しています。15期生の飯泉君がさわやか杯都大会で優秀選手に選ばれ、同大会で津田君が強化選手に選ばれています。東京都のトレセンにも参加しています。都大会で活躍すると都トレセンへの道が開かれます。みんなも先輩に続いてほしいのです。

